

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872001284		
法人名	東成産業 株式会社		
事業所名	グループホーム いちさと筑波	ユニット名	山吹
所在地	〒300-4224 茨城県つくば市小和田145		
自己評価作成日	平成22年9月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年11月11日	評価確定日	平成23年3月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

前向きな気持ちで穏やかに楽しみを見つけながらその人らしく生活できるように努めている。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然に恵まれた場所に立地し、利用者は四季を五感で感じて、昔なつかしい時代を思い出しながらゆったりとした生活を送っている。 利用者は職員から温かい言葉かけや思いやりのある支援を受けている。 職員は利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めているほか、様々なボランティアを受け入れたり、利用者の希望に応じてドライブや買い物、外食などを支援し、日々の生活が張り合いのあるものとなり、楽しめるよう支援している。 協力医療機関と連携し、週1回の訪問診療や看護師による見守りを支援しているほか、急変時や専門医への受診が必要な場合は適切な医療が受けられるよう支援し、利用者の安心につながっている。
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に職員一同でケアに努めている。	「利用者の心に寄り添い、その人らしく生活できるようサポートし、地域や家族との交流を大切に自由な暮らしを尊重します。」を旨とした理念を作成し玄関や事務所に掲示している。 管理者や職員は会議等で理念の見直しを1年毎に行うとともに、月1回のカンファレンスで共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加し、ホームの催しにも参加して下さっている。	民生委員の紹介で、工作やフラダンス、大正琴などの地域のボランティアが月1回程来訪し、利用者とは交流している。 職員は地域の一員として、年2回、カン拾いなどの清掃活動に参加している。 現在、実現には至っていないが、代表者は中学校や高校へ出向き、学生がボランティアとして事業所に来てもらえるよう働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に袋などを持ち、ゴミ、あき缶等を拾いながら地域の一員として参加できるよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、区長、民生委員、市職員、家族などと一緒に話しあって、意見等を参考にし、サービスに取り組んでいる。	運営推進会議は市職員を含めて3ヶ月に1回開催するとともに、会議録を作成している。 会議では事業所の現状や火災訓練等の行事予定を報告したり、市職員より情報提供があるほか、意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、生活保護担当者とのやりとりが主で、電話で連絡を取り合い、必要時には来所して頂き、相談し対応してもらっている。	市担当者が運営推進会議に出席するほか、管理者からの相談や情報提供に応じるなど、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行わない方針であり、外に出たい方は、さりげなく寄り添い歩くように心掛けている。職員一同マニュアルを共有し認識している。	職員は身体拘束の弊害を理解しており、居室や玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 管理者は身体拘束のマニュアルを作成するとともに、職員が外部研修会や内部勉強会に参加する機会を設けたり、研修結果の回覧を通して全職員が理解を深められるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで話しあい、日々虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護や成年後見制度を必要とする利用者はおらず、実際には利用していない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接家族や利用者本人と面談し、理解、納得を頂いた上、契約、解約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを出し、意見や要望を聞き直接申し出があった場合は即実行に移している。	運営推進会議に利用者や家族等が参加し、意見や要望を聴いているほか、家族等に無記名のアンケートを実施し意見等を汲みあげている。 「居室の臭いが気になる」との意見を受けて消臭剤を置いたり、掃除やシーツ交換を行うなど、改善に取り組んでいる。	「職員の名前が分からない」との意見には、名札を付けるよう検討しているため、実現することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、カンファレンスを開き、職員より提案、改善点などの意見を出し合い、反映に努めている。	管理者は月1回カンファレンスを開催し、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 代表者は、管理者や職員から直接意見を聞く機会を設けるとともに改善策を話し合い、夜勤と日勤の業務分担を改善したり、シフト体制の変更が臨機応変にできるよう改善するなど、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のコミュニケーションを大切にし、職場環境、条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会に交替で参加している。個々が向上に努める必要性や重要性を話している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回のペースで、同業者との連絡会を開き情報交換、勉強会などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や家庭環境などを聞き、利用者の細かな言葉を重要と考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴、受容の姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、生活環境や要望をお聞きし、当事業所以外での適切なサービスがあれば、情報を提供し、連携をとっている。入居後も希望があれば介護保険外で利用できる医療サービスなども導入し対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事は、スタッフが習い、時にはスタッフが利用者に頼り、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を伝え、家族に問題点や本人の相談をし、一緒に支援策を考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人がいつでも気軽に来れるよう雰囲気作りに心掛け、以前住んでいた近所の方に会いに行ったりと支援に努めている。	管理者は利用者がお盆や正月に家に帰れるよう働きかけるなど、家族や親族、友人との付き合いが継続できるよう支援している。 馴染みの美容師に来訪してもらうよう、職員が2ヶ月から3ヶ月毎に調整を図ったり、利用者が以前住んでいたアパートの大家に挨拶に行けるよう、職員が付き添うなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がさりげなく利用者同士の中に入り、日常の家事を行ったり、互いの誕生日を祝い合い楽しめる機会なども設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後も相談頂ければお力になれる旨をお伝えし、こちらからもその後のご様子などをお聞きしたりして、連絡をとり、安心して過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前の生活歴などを家族や本人より聞き取り、その人らしい生活が出来るように、常にコミュニケーションをとり、スタッフからも情報を得るよう努めている。	職員は基本情報から利用者の生活歴を把握するほか、入浴やドライブなど、二人きりになった時に話を聴くよう努め、思い思いの生活ができるよう支援している。 意志疎通が困難な利用者には、日々の生活の中で、表情やしぐさから思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記と同様に、聞きとった情報をスタッフ全員で把握できるよう、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察、記録し細かな気づきもスタッフ同士共有し、申し伝え、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原本を計画作成者が作り、それに基づき、家族や本人、スタッフを交え話し合い、計画書を仕上げている。	介護計画は、家族等の来訪時に意見や要望を聴き反映させるとともに、会議を開催し職員や介護支援専門員の意見を取り入れて作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行うとともに6ヶ月毎に介護計画を見直し、家族等の確認印を得ている。 利用者の退院時や心身の状態に変化が生じた場合はその都度、状態に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録に記入し、申し送りにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊等は希望時、随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用したり、ボランティア（数団体）の協力を得て、日々の暮らしに張りが出るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、主治医を決めている。往診を依頼し、必要時は受診介助を行っている。	かかりつけ医は利用者や家族等の意向を聴いて決め、職員が通院介助をしている。 協力医療機関の医師による週1回の訪問診療や、看護師による週1回の見守りがあるほか、急変時や専門医への受診が必要な場合は、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、週1回の往診、加えて週2回の看護師が訪問している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、まめに面会に行き、状態の把握と本人の回復を望む意志を伝え、寄せ書き等を持って行くなどし、活気づけて不安が軽減するよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方を話しあい、同意書や指針の説明をしている。ターミナルケアの方針やマニュアルも作っており、本人、ご家族の意向をとりいれ、緊急時は医療関係者と連携を取り合い対応している。</p>	<p>重度化した場合の指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。</p> <p>事業所は看取りをしない方向で利用者や家族等に説明し、終末期に向けては主治医や家族等、管理者で協議し、医療機関と連携を図り対応している。</p> <p>事業所は看取りの経験は無いが、今後は実情を踏まえて対応を検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訓練は行っていないが、急変時の手順などはマニュアル化してある。外部での救急救命講習会などでの応急手当のやり方などは、各自参加してもらい、学んでもらっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の下、入居者、職員、自治会、民生委員、地域の方も参加し年2回（4月と10月）避難訓練を行っている。</p>	<p>防火防災訓練は消防法に基づき夜間想定を含めて年2回実施するとともに、実施状況や課題について話し合っているが、記録を作成するまでには至っていない。</p> <p>訓練に民生委員や近隣住民の参加を得るとともに、消火器の使用方法を確認している。</p> <p>災害時に備えて、食料品等を備蓄している。</p>	<p>次回の訓練に役立つように、避難訓練後は実施状況や課題について話し合い、記録に残すことを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、排泄、入浴その他の声かけ対応に配慮している。	職員は排泄介助時には利用者に小声で声かけし、気配りしながらトイレ誘導するなど、利用者の人格を尊重した対応に努めている。 職員は、利用者の人格を傷つけないような言葉かけや対応について話し合い実践に努めている。 個人情報の書類等は事務室に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にしており、日常の会話から意志が聞き出せ、読み取れるよう努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを第1に考え対応している。散歩、ドライブ、その他の希望は随時対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望美容室がある利用者は通っており、また、洋服等も一緒に買いに行っている。日常もおしゃれへの声かけをしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に料理を作り、味見をしたり、又盛り付け、片づけ等も分担して行っている。	職員は利用者と同じ食卓を囲み、声かけや食事介助をしながら一緒に食事をしている。 利用者は能力に合わせて食事作りや下膳などを担っている。 職員は利用者の好みや苦手な物を把握しているほか、敬老会や誕生会などには、食事が楽しめるように行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたバランスの良い献立で調理しており、水分チェック表も作り、水分摂取量を記入し、1回に多く摂取できない方にはこまめに何回も摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長年の習慣で毎食後の口腔ケアは行わない方がいるが、できるだけ声かけし、必要に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗、失禁の多い方は、排泄パターンを知り、トイレ誘導している。又、パッド使用の多い方もトイレ誘導し、パッド使用を減らすよう努めている。	職員は排泄表を記録するとともに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計って声かけやトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるように支援している。 夜間、居室にポータブルトイレを置き、排泄の自立に向けた支援をしている。 適切な排泄支援により、トイレでの排泄が困難だった利用者がリハビリパンツを使用しながらトイレで排泄できるよう改善したケースがある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取してもらったり、歩行などの運動もしてもらうよう声かけしている。排泄チェック表を作り、チェックしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望回数、順番を聞き、随時希望に応え対応し、入浴時の会話を大切にしている。	基本的には毎日入浴支援しているが、利用者の希望を聴いたり、体調に配慮して支援している。 脱衣所は温度調節され、「入浴中」の札を掛けるなど、ゆっくり入浴できるよう配慮している。 浴室にシャワーチェアを用意して、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースにあわせ、休息してもらっている。長時間、椅子に座ったままの方には状況判断で声をかけ、休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬ファイルを作り、職員全員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にあった役割を見つけ、利用者が前向きになるような声かけを職員が考え、日々の生活が自立し楽しめるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、時には外食やお茶を飲みに行ったりしている。	年間の行事計画を作成し、利用者が出かけられるよう支援しているほか、日光浴や買い物、外食、散歩などの外出支援をしている。 レンタカーで外出する時は、家族等に案内状を出して一緒に出かけられるように支援している。 利用者の希望に応じて事業所の車両でドライブに出かけたり、筑波山の梅祭りには、つくば市観光物産課の協力を得て安全に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が本人に小遣いを置いていく場合もあるが、本人の希望があれば随時小額を渡している。買い物も一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には自由に使ってもらっている。手紙も一緒にポストに投函しに行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、鉢植えの花を育てたり、各場所には家庭と同じ物を置き、掃除などは箒などを使い工夫している。	リビング兼食堂は、明るく広く開放的で、大きな窓からは植栽された中庭が見え、季節を感じるができる。 中庭は、利用者が洗濯物を干したり、日光浴の場として活用され、五感の刺激に役立っている。 廊下やトイレは清潔に保たれ、手すりが設置されており、高齢者に優しい造りになっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関、中庭にはソファ、ベンチ、椅子などがあり、のんびりと草花を眺め、過ごせる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や小物が置いてあり、居心地良く過ごせるよう配慮している。	職員は利用者や家族等と話し合い、居室に写真や鏡、文机、椅子、テーブルなどを持ち込んでもらい、一人ひとりに合わせた居室づくりに努め、居心地良く暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりや各場所名、居室の入口には本人の名前プレートを貼ったり、身長に合わせた場所名も工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム いちさと筑波

作成日 平成23年4月7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	「職員の名前が分からない」との意見には、名札を付けるよう検討している為、実現することを期待する。	ご家族などに職員の名前を覚えてもらう。	各ユニットの入口に写真、自己紹介などを掲示する。	平成23年10月末まで
2	35	次回の訓練に役立つように、避難訓練後は実施状況や課題について話し合い、記録に残すことを期待する。	訓練後は防火講話や訓練講評などを記録し事後役立てたい。	年2回の防災訓練事において実施する。	年2回「4月、10月」
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。